
平城宮跡歴史公園スマートチャレンジ

全体計画

(案)

令和元年 9 月

目次

1. 計画趣旨	1
2. 計画の背景	2
2.1. スマートシティを巡る政策展開	2
2.2. 奈良をとりまく社会情勢	4
2.2.1. 奈良の地域概況	4
2.2.2. 奈良周辺地域における大規模事業等	5
3. 平城宮跡歴史公園の概要	6
3.1. 公園整備の概要	6
3.2. 平城宮跡歴史公園の現状と課題	9
4. 平城宮跡歴史公園スマートチャレンジの基本方針・将来像	10
4.1. 基本方針	10
4.2. 将来像	10
5. 社会実験	11
5.1. 実験内容	11
5.2. 実施体制	12
6. 市民参画の推進	13
7. 情報発信	14
8. 計画スケジュール	15

1. 計画趣旨

平城宮跡歴史公園スマートチャレンジは、国営公園を舞台として AI や IoT などの新技術を活用し、公園の抱える課題の抜本的な解決や、公園利用者サービスの創出などによる一層の魅力向上を目指す「パークスマートチャレンジ」の第一弾となる取組であり、1300年前には日本の首都（の中心）であり、当時最先端の場所であった特別史跡・世界遺産「平城宮跡」において、従来からの文化財・歴史的資産としての適切な保存を図りつつ、平城宮跡歴史公園の飛躍的な魅力向上を図るため、産学官コンソーシアムのもと、民間事業者からの提案に基づく新技術（AI や IoT、ICT 等）を用いた社会実験を実施し、公園サービスとしての実用化を目指すとともに、奈良のまちづくりにおけるスマートシティ実現に向けて、当公園での社会実験の結果等を踏まえ、新技術の水平展開を促進することを目指す取組である。

この先導的取組を着実に実行し、新技術の社会への実装を確かなものとするため、平城宮跡歴史公園スマートチャレンジにおける各プレイヤーの役割等を明確化するとともに、社会実験の基本方針やスマートチャレンジが目指す将来像を示すものとして、本計画を策定する。

なお、平城宮跡歴史公園スマートチャレンジにおいて実施する社会実験の内容については、個別の実施計画を策定することとする。また、平城宮跡歴史公園スマートチャレンジは、その取組内容の特性上、社会実験の進捗に応じて、取組内容を臨機応変に見直していくことが必要となる場合が想定され、その場合には、本計画についても、適宜必要な修正を加えていくものとする。

2. 計画の背景

2.1. スマートシティを巡る政策展開

都市が抱える様々な課題を解決し、持続性・発展性の高い都市を構築するため、新技術を活用した都市の効率化や住民生活の質の向上に向けた取り組みが世界的潮流として進行する中、日本においてもスマートシティ関連の政策が省庁連携で展開されている。なかでも基幹的役割を果たすのが、政府が閣議決定した『未来投資戦略 2018 —「Society 5.0」 「データ駆動型社会」 への変革—』であり、まちづくりと公共交通の連携を推進し、次世代モビリティサービスや ICT 等の新技術・官民データを活用した「コンパクト・プラス・ネットワーク」の取組を加速するとともに、これらの先進的技術をまちづくりに取り入れたモデル都市の構築に向けた検討を進めるとしている。このほか、内閣府による『「スーパーシティ」構想の実現に向けて（最終報告）』（平成 30 年 6 月）、総務省による『スマートシティ検討 WG「第一次取りまとめ」』（平成 29 年 1 月）、経済産業省による『新産業構造ビジョン』（平成 29 年 5 月）で、各省庁のスマートシティ関連の政策方針が定められている。

こうした状況を踏まえ、国土交通省都市局では、平成 30 年 8 月、『スマートシティの実現に向けて【中間とりまとめ】』を策定した。これは、我が国におけるスマートシティの全体像を描き、目指すべき将来像や取組の方向性を示すことで、スマートシティの取組を推進すべく策定されたものである。内容としては、スマートシティを巡るこれまでの国内外の取組や、都市の課題とまちづくり分野において活用される新技術の整理、生活者と都市の管理者・運営者の双方の立場からみた「スマートシティが実現する社会」の定義、国土交通省都市局として目指すべきスマートシティのコンセプトとイメージの明確化、国土交通省都市局として取り組むスマートシティの具体的施策について記載している。

このとりまとめにおいて、スマートシティの推進に向けた具体的施策と、それらをパッケージで支援するモデル事業の想定スキームを先導的に実施する場として、国営公園が取り上げられており、スマートシティの実現に向けた体制の構築、計画策定や事業推進に対する支援を検討する必要がある。

スマートシティの実現に向けて【中間とりまとめ】

スマートシティの実現に向けて【中間とりまとめ】の策定にあたって

- ▶ 「Society5.0」(超スマート社会)の提唱など、イノベーションの進展による経済社会構造の大きな変革が世界的潮流として進行する中、都市行政において新技術をどのように取り込み、都市の課題解決に向けて、より高度で持続可能な都市を実現するために、何が必要かを検討し、社会実装に向けた動きを進める必要

〔未来投資戦略2018-「Society 5.0」(データ駆動型社会)への変革-〕(平成30年6月15日閣議決定)

- ▶ まちづくりと公共交通・ICT活用等の連携によるスマートシティ
- ▶ まちづくりと公共交通の連携を推進し、次世代モビリティサービスやICT等の新技術・官民データを活用した「コンパクト・プラス・ネットワーク」の取組を加速するとともに、これらの先進的技術をまちづくりに取り入れたモデル都市の構築に向けた検討を進める

- ▶ スマートシティの全体像を描き、目指すべき将来像、取組みの方向性を示すことで、各都市の課題解決に向けた取組みの推進、民間企業の技術のまちづくりへの応用や研究開発等が進むことを期待して本中間とりまとめを作成

スマートシティ

⇒ 都市の抱える諸課題に対して、ICT等の新技術を活用しつつ、マネジメント(計画、整備、管理・運営等)が行われ、全体最適化が図られる持続可能な都市または地区

<p>Mobility 交通</p> <p>・公共交通を中心に、あらゆる市民が快適に移動可能な街</p> 	<p>Nature 自然との共生</p> <p>・水や緑と調和した都市空間</p> 	<p>Energy 省エネルギー</p> <p>・バツシブ・アクティブ両面から建物・街区レベルにおける省エネを実現 ・太陽光、風力など再生可能エネルギーの活用</p> 	<p>Safety & Security 安全安心</p> <p>・災害に強い街づくり・地域コミュニティの育成 ・都市開発において、非常用発電機、備蓄倉庫、避難場所等を確保</p> 	<p>Recycle 資源循環</p> <p>・雨水等の貯留・活用 ・排水処理による中水を植栽散水等に利用</p> 
---	--	--	--	--

図 中間とりまとめにおけるスマートシティの定義

スマートシティの実現に向けて【中間とりまとめ】

国土交通省都市局として取り組むスマートシティの具体的施策

スマートシティの推進にあたって行政に期待される役割

- 民間企業が新たな技術を社会に実装させていこうとする場合には、様々なハードルが存在
- 民間企業にヒアリングした結果、企業側が考える技術の社会実装にあたっての課題や行政に期待される役割として、「ビジョンの明確化」、「推進体制」、「データの管理運用」、「データ活用」、「個人情報関係」といった課題・役割があるという意見が得られた

具体的な支援施策

(1)体制の構築に対する支援

- コンソーシアム(協議会等)を組成し、都市の目指すビジョンの明確化、行政の担当部署間カウンターパートとの調整等、円滑な事業推進にあたって、行政が積極的に関与し、支援することが必要

(2)計画の策定に対する支援

- 計画の策定にあたっては、行政資産・データのオープン化、データの管理・共有化・利活用にあたってのルール策定、新たな取組みを実装するにあたっての規制の調整・既存制度の紹介、個人情報保護関係の調整、技術ガイドラインにおける支援が必要

(3)事業の推進に対する支援

- 都市の情報化に関する事業を支援対象に拡充する等の支援が必要
- 情報通信機器の設置、データプラットフォームの構築にあたっては、総務省と連携して取り組む必要

(4)モデル事業の実施による支援

- 上記(1)、(2)、(3)をパッケージとして支援するモデル事業を実施し、都市局として重点的に支援することで、新技術をまちづくりに取り入れた先進的モデルを全国に普遍的に拡げていくための第一歩を始動することが必要
- 新技術を取り入れたモデル事業の想定スキームを提示し、**国営公園において先導的に実施する**ほか、関係省庁等と連携し、スマートシティのモデル都市の構築を進める

(5)スマートシティの海外展開の支援

- 関係省庁及び機関と連携して、幅広い分野において、上流から下流までが一体となったスマートシティの海外展開の推進のための体制構築が必要
- 国内の標準化機関が中心となって進める標準化規格の提案を支援することが重要

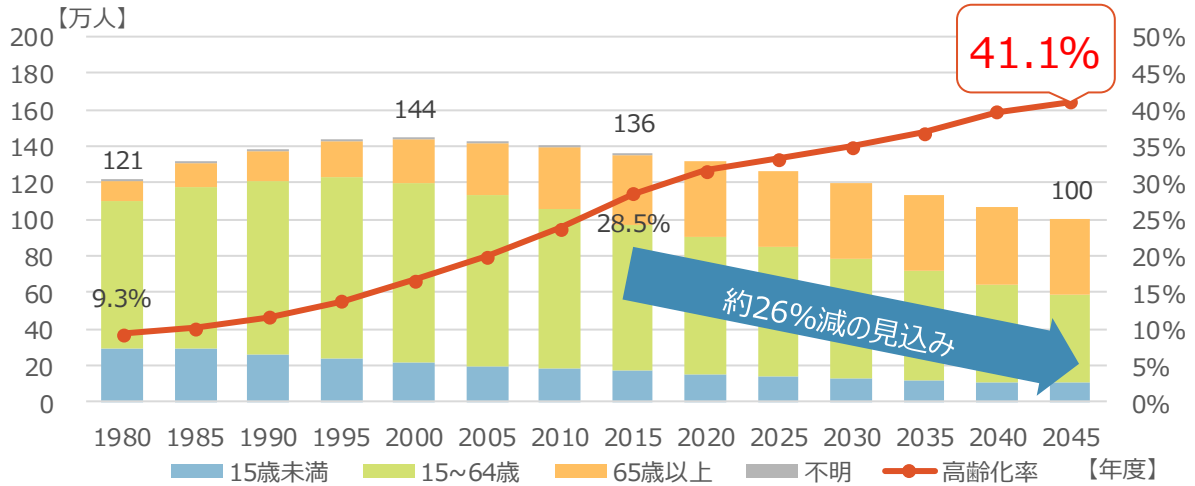
図 2-1 『スマートシティの実現に向けて【中間とりまとめ】』 (一部抜粋)

引用：国土交通省資料

2.2. 奈良をとりまく社会情勢

2.2.1. 奈良の地域概況

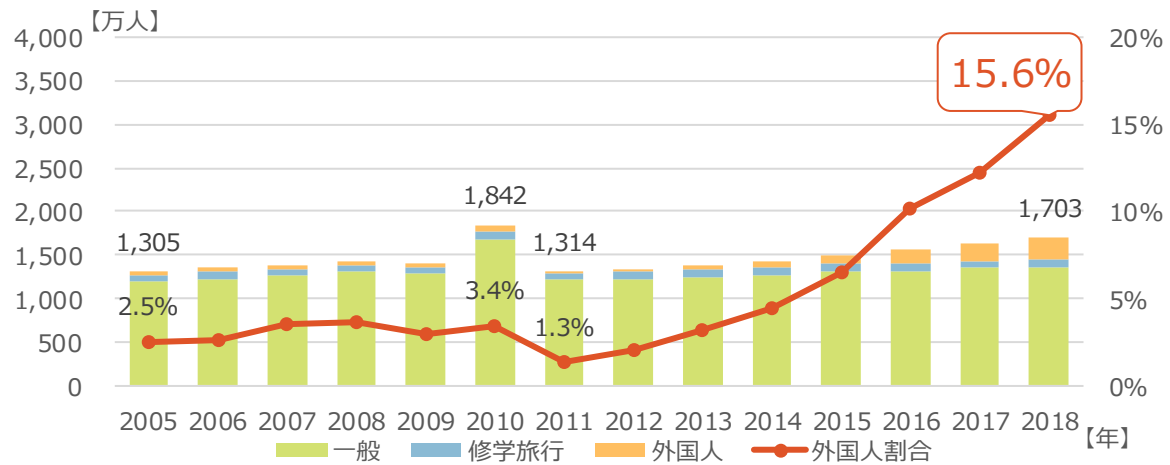
奈良県の人口は、2000年度の144万人をピークに減少傾向にあり、2045年度には2015年度比で約26%減少すると予測されている。一方、高齢化率は1980年度の9.3%から一貫して上昇傾向にあり、2045年度には41.1%まで達する見込みである。



出典：国勢調査（～2015年）、国立社会保障・人口問題研究所（2020年～）

図 2-2 奈良県の人口推移

一方、奈良市には多くの観光客が訪れており、平城遷都 1300 年記念行事が行われた 2010 年には、近年で最多の 1,842 万人が訪れている。近年では、特に外国人観光客が多くなっており、東日本大震災の発生した 2011 年には 1.3%であった外国人割合が 2018 年には 15.6%となっていることから、インバウンド対応の検討が重要となっている。



出典：奈良市観光入込客数調査

図 2-3 奈良市の年間観光入込客数

2.2.2. 奈良周辺地域における大規模事業等

奈良周辺においては、大阪万博（2025年）をはじめ、ラグビーワールドカップ（2019年）やワールドマスターズゲームズ（2021年）など、関西圏への来訪者増加が期待されているイベントが多く予定されている。また、おおさか東線（2019年開業）、リニア中央新幹線（2037年大阪延伸予定）、大和北道路（事業化決定済）など、奈良へのアクセス環境改善につながる計画も多く計画されているほか、奈良市内でも、奈良公園バスターミナル（2019年開業）、奈良県コンベンションセンター・JW マリオットホテル奈良（2020年開業予定）、JR 関西本線新駅（2024年度開業予定）など、大規模開発事業が実施・計画されている。

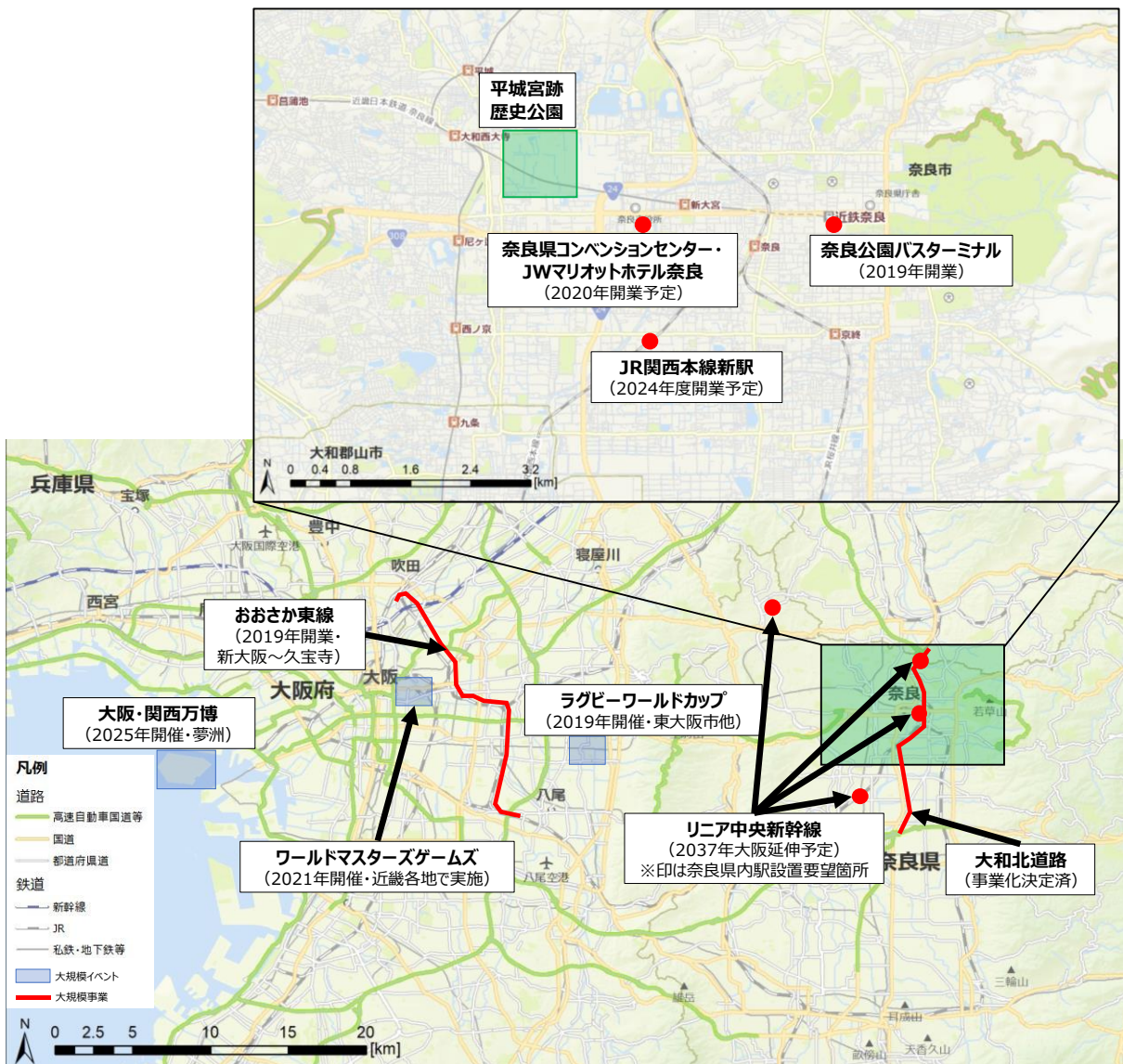


図 2-4 奈良周辺で予定されている主な大規模事業等

3. 平城宮跡歴史公園の概要

3.1. 公園整備の概要

平城宮跡歴史公園は、『国営飛鳥・平城宮跡歴史公園 平城宮跡区域 基本計画』（平成 20 年 12 月、国土交通省近畿地方整備局）に基づき、「古都奈良の歴史的・文化的景観の中で、平城宮跡の保存と活用を通じて、“奈良時代を今に感じる”空間」として、国土交通省及び奈良県により公園整備が進められている。

当該基本計画では、「特別史跡・世界遺産である歴史・文化資産としての適切な保存・活用」「古代国家の歴史・文化の体感・体験」「古都奈良の歴史・文化を知る拠点づくり」「国営公園として利活用性の高い空間形成」の 4 つの基本方針が掲げられており、歴史・文化体感・体験機能や歴史・文化交流拠点機能、自然的環境保全・創出機能といった平城宮跡ならではの機能や地域の貴重なオープンスペース、奈良観光の重要な拠点としての機能導入が進められている。

国営飛鳥・平城宮跡歴史公園 平城宮跡区域 基本計画の概要		
<p>* 目的</p> <p>世界遺産「古都奈良の文化財」の構成資産の一つである特別史跡平城宮跡（奈良県奈良市）について、その一層の保存・活用を目的に、平成 20 年度に国営公園として事業着手されたことを受け、長期的な整備・管理を進めていく上で踏まえるべき基本的な内容を定める。</p> <p>なお、国営公園の周辺について、一つの都市計画公園として、奈良県を中心とした地元が国営公園と連携した整備を進めることとしており、本計画はこれら区域全体を対象とする。</p>	<p>* 導入すべき機能</p> <p>貴重な歴史・文化資産としての確実な保存を前提とし、以下の機能を導入する。</p> <p>① 歴史・文化体感・体験機能</p> <p>※今後も継続される発掘調査・研究の成果をもとにした遺跡の活用と、周辺の歴史的・文化的景観とあわせ平城宮跡の広大なスケールを活かした景観形成により、古代国家の歴史・文化を体感・体験できるようにする。</p> <p>※主要な遺構については、十分な調査研究に基づき、原位置で実物大の建物等を復原し、それを活用した取組を行う。それ以外の遺構についても、わかりやすい表示、解説の実施や出土品を展示する施設を設けることにより、来園者が往時の平城宮を認識できるようにする。</p> <p>② 歴史・文化交流拠点機能</p> <p>※平城宮跡や古都奈良全体の歴史・文化情報、観光情報を国内外に発信する。</p> <p>※歴史・文化に関する国際交流、地域交流に役立つイベント等を開催する。</p> <p>③ 観光ネットワーク拠点機能</p> <p>※古都奈良の観光拠点として、平城宮跡の特徴を活かした歴史・文化の体感・体験が行えるようにする。</p> <p>※観光情報の発信や交通ターミナルの整備により、奈良観光の玄関口の役割をもたせる。</p> <p>④ 自然的環境保全・創出機能</p> <p>※都市部に残された貴重な緑地として、自然的環境を保全・創出し、その活用を図ることにより、自然体験の機会を提供する。</p> <p>⑤ レクリエーション機能</p> <p>※都市部に残された貴重なオープンスペースとして、多目的に活用できる広場、季節や時間の移ろいを楽しむための施設整備等によって、公園としての魅力を高めつつ、多様なレクリエーション利用ができるようにする。</p> <p>※大規模地震など非常災害時の避難場所として必要な整備を行う。</p> <p>⑥ 利用サービス機能</p> <p>※快適性や利便性を高める施設整備等により、様々な来園者に質の高いサービスを提供する。</p> <p>※地域住民やNPOをはじめとした多様な主体の参画を促す。</p>	<p>* 利用・整備計画</p> <p>導入すべき機能の展開に必要な区域として、特別史跡平城宮跡の国有化された区域を中心に、その南側にある史跡平城京朱雀大路跡とその東西区域、特別史跡平城宮跡の南東区域を取り込み（約 130ha）、これらを 4 つにゾーン分けし、各ゾーンの役割に見合ったハード、ソフトを展開していく。</p> <p>各ゾーンの位置、役割と主要施設の計画については裏面図に示すとおり。</p> <p>なお、施設整備に当たっては、遺跡の保存を前提とし、平城宮跡の景観を損なうことのないよう配慮して行う。</p> <p>* 管理・運営方針</p> <p>平城宮跡にしかない施設や空間等を十分に活用し、展示やイベント等を実施し、往時の歴史・文化を楽しみながら知ることのできる管理・運営を行う。その際、継続的に実施される発掘調査や研究の成果を積極的に活用していく。</p> <p>また、地域住民やNPOをはじめ多様な主体のボランティア参画を促進し、管理・運営の充実を図る。</p> <p>さらに、利用情報の提供や高齢者等のサポート、利用ルールの制定、適切な施設・植物管理、清掃等、コストに配慮しつつ、来園者にとって快適性、利便性の高い国営公園にふさわしい管理・運営を行う。</p> <p>なお、これらについては、史跡上に設けられる公園等として、関係機関との役割分担、連携のもと、来園者の公園利用に支障を生じないように進めていく。</p> <p>* 段階整備方針</p> <p>平城宮跡には、これまでの経緯の中で、宮跡内に道路や鉄道、文化財の調査研究施設等が設けられている。これらは将来的に移設、移転することになるが、その途中段階においても可能な限り来園者の利便性を損なわずに本公園が担うべき機能を発揮できるよう、関係機関との連携調整を密にし、段階的な整備を進めていく。</p>

図 3-1 国営飛鳥・平城宮跡歴史公園 平城宮跡区域 基本計画の概要

平成 30 年 3 月には、朱雀門南側の「朱雀門ひろば」等について整備が進んだことから、国営公園区域と奈良県営公園区域を同時に供用開始した。

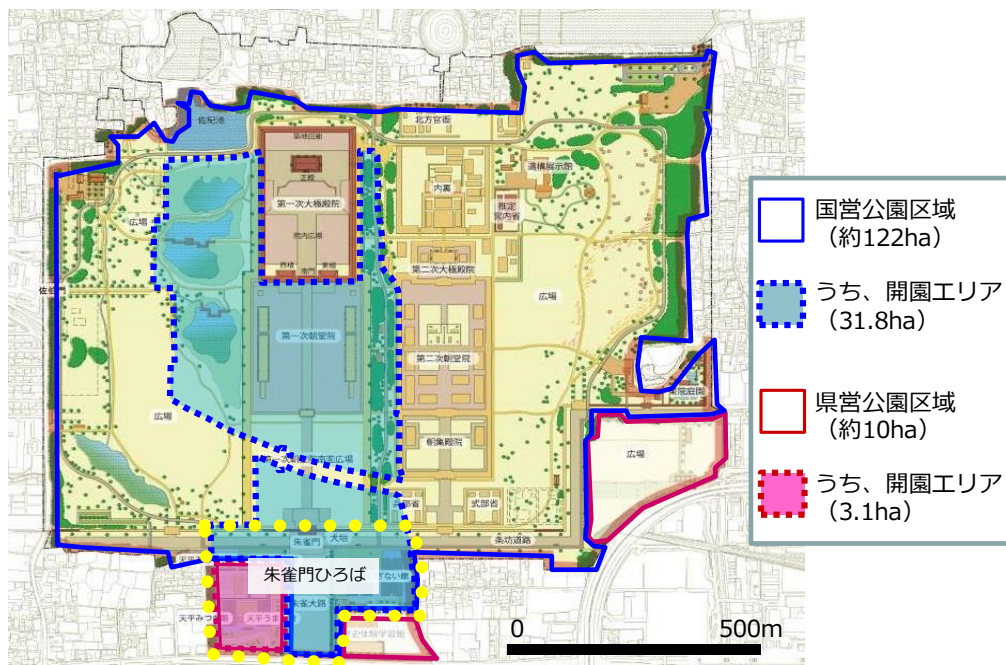


図 3-2 平城宮跡歴史公園の全体図

表 3-1 区域別の概要

		国営公園区域	県営公園区域
公園管理者		国土交通省 近畿地方整備局 国営飛鳥歴史公園事務所	奈良県 県土マネジメント部 まちづくり推進局 平城宮跡事業推進室
管理受託者		平城宮跡管理センター	平城京再生プロジェクト
開園エリア	面積	31.8ha	3.1ha
	主な施設	・平城宮いざない館 ・朱雀門（復原） ・第一次大極殿院（復原）	・天平みはらし館 ・天平つどい館 ・天平みつき館 ・天平うまし館
未開園エリア	面積	約 90ha	約 7ha
	主な施設	・平城宮跡資料館 ・第二次大極殿・東院庭園	—

「朱雀門ひろば」では、平城宮跡のメインエントランス、奈良観光の新たな拠点として、大型映像や模型、平城宮跡を体験的に学ぶことのできるハンズオン展示、宮跡内で発掘された出土品等の展示を行う「平城宮いざない館」や、奈良の物産を扱うスーベニアショップ、奈良全体の観光案内所、団体旅行者専用の集合施設、復原遣唐使船やVRシアターといった体験施設において、平城宮跡を訪れた観光客の方々への各種サービスが提供されている。

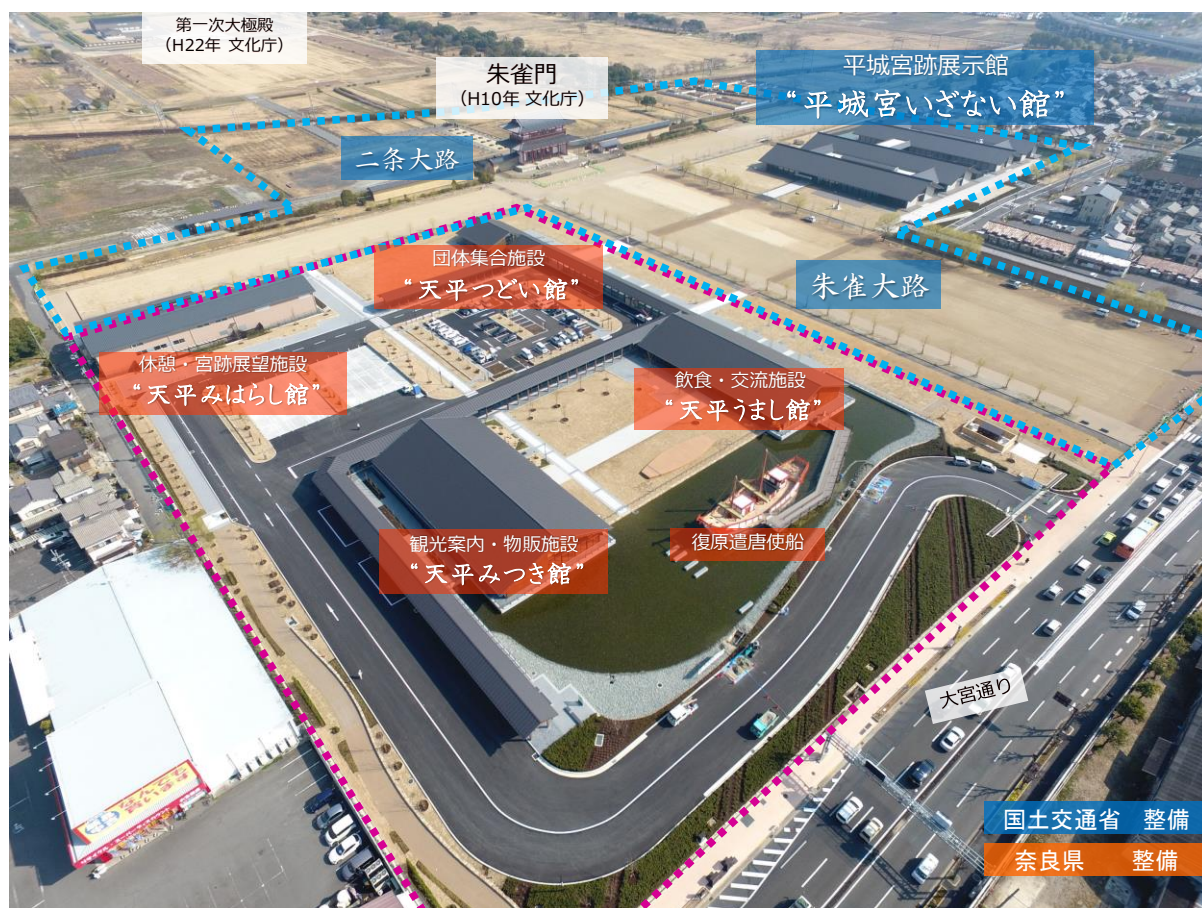


図 3-3 朱雀門ひろば

3.2. 平城宮跡歴史公園の現状と課題

(1) 園内の移動手段

広大な面積を有する園内における移動手段として、現在、レンタサイクルやシェアサイクルが提供されている。しかし、現況の移動手段はユーザーが限定されており、特に小さな子供連れの家族や高齢者、体の不自由な方等を中心に、園内の円滑な移動が困難となっており、多様な来園者が円滑に園内を移動できる環境づくりが課題となっている。

(2) 園内での歴史体験・解説サービス

園内では、遺跡保存との両立等による施設整備の制約を補うとともに、来園者の増加や満足度の向上を図るため、奈良時代の平城京を再現した VR 映像の提供や携帯アプリによる音声ガイド等を実施している。しかし、既存のサービスが主に施設内での定点的なサービスとなっていることから、広大な平城宮跡を周遊しながら「奈良時代を今に感じる」ことのできる歴史体験・解説サービスが不足している。

(3) 公園情報の発信等

平城宮跡歴史公園は、開園エリアにおいては国土交通省と奈良県、未開園エリアにおいては文化庁と奈良文化財研究所が、それぞれ管理を行う施設及び区域が存在しており、それに伴い各種施設情報や利用案内も各機関で別に管理している HP で行われている。そのため、来園者が負担感なく円滑に必要な情報を取得し、また各種サービスの予約等を行うといったユーザーインターフェイスの確保が課題となっている。

(4) 園内施設の維持管理

広大な園内の施設管理に際し、現状では職員が園内を悉皆的に巡視し、紙媒体の施設管理台帳を用いて管理するという手法を用いられている。この手法では、多くの人的コスト等を要するため、維持管理の効率化・省力化が課題となっている。

4. 平城宮跡歴史公園スマートチャレンジの基本方針・将来像

4.1. 基本方針

前章までに整理した背景を踏まえ、産学官コンソーシアムの下、平城宮跡歴史公園スマートチャレンジを進めていく上での基本方針を、以下の通り定める。



新技術 の 活用

公園の抱える課題の解決や公園サービスの飛躍的な向上、奈良のスマートシティ実現を目指し、新技術を活用した社会実験を展開する。



市民 参画

新技術の社会への実装に向けて、地域住民向けの説明会や近隣の高校・大学等と連携したハッカソン等を通して、技術や仕組みの磨き込みを行う。



情報 発信

HP や SNS 等を活用した社会実験等に関する情報発信、シンポジウムや講演会等の関連イベントを展開し、奈良のスマートシティ実現に向けた社会意識の醸成を試みる。

4.2. 将来像

平城宮跡歴史公園スマートチャレンジを通し、以下の2点の将来像を目指す。

平城宮跡歴史公園内での新技術の実用化

スマートシティの推進に向けた具体的施策と、それらをパッケージで支援するモデル事業の想定スキームを先導的に実施する場として、コンソーシアムが主体となり、平城宮跡歴史公園内でのスマートチャレンジを実施するとともに、園内での各取組のサービス実用化を目指す。

奈良公園を含めた周辺の公園・奈良のまちづくりへの展開

平城宮跡歴史公園でのスマートチャレンジで効果が把握できた取組を中心に、奈良公園を含めた周辺の公園に対し、コンソーシアムを通してスマートシティの運営ノウハウや構成技術の展開を図る。また、上記の取組を通して、スマートシティの運営ノウハウや構成技術を確立させるとともに、地域のスマートシティに対する理解を深め、奈良のまちづくりに展開するための後押しを行う。

5. 社会実験

5.1. 実験内容

令和元年度に開始する社会実験では、以下の6つのテーマに分類される11項目の実験を行う。

① 新たなモビリティサービス

自動運転等による次世代型モビリティを活用して、安全かつ効率的な園内移動を実現。



② AR技術を活用した歴史体験サービス

最新のAR・MR技術等を活用して、公園の有する文化財等に関する歴史体験サービスを多言語で提供。



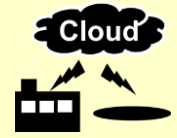
③ アプリケーションによる公園情報の受発信サービス

携帯向けアプリを活用して、園内の利用情報やイベント情報等を、多言語で送受信できるシステムを構築。



④ クラウドによる施設管理の効率化

施設管理の効率化・迅速化を図るため、クラウドシステムを活用した公園台帳システムを構築。



⑤ その他

公園の利用や維持管理・メンテナンスの飛躍的な向上に資するもの（例：ドローン、AIカメラ、デジタルサイネージ等）

⑥ データプラットフォーム

①～⑤で取得される各種ユーザーデータの収集の仕組み及び当該データの統合・分析・共有のためのプラットフォーム

※ : 公園利用サービスの向上 : 公園の運営・維持管理の効率化 : その他

図 5-1 平城宮跡歴史公園スマートチャレンジの実験テーマ

表 5-1 社会実験の概要及び実施主体

テーマ	概要	実施主体
①新たなモビリティサービス	自動運転車・パーソナルモビリティ・シェアバイクを複合的に活用したモビリティサービス	株式会社 NTT ドコモ
	自動運転車を活用したモビリティサービス等	PerceptIn Limited
②AR 技術を活用した歴史体験サービス	AR 技術を活用した歴史体験・解説サービス	株式会社ジャパン・インフラ・ウエイマーク
	VR 技術やモビリティ（自動運転）を活用した歴史体験・解説サービス	凸版印刷株式会社
③アプリケーションによる公園情報の受発信サービス	ポータルアプリやデジタルサイネージを活用した情報受発信	凸版印刷株式会社
④クラウドによる施設管理の効率化	クラウド等を活用した公園施設管理台帳システム	国際航業株式会社

⑤その他	ドローン等を活用した公園施設のインフラメンテナンス	株式会社ジャパン・インフラ・ウェイマーク
	モビリティ（自動運転）やドローン等で取得される画像データ活用したAI画像解析によるインフラメンテナンス	NTTコムウェア株式会社
	カメラで得られる画像等を活用したAI人流解析	日本電気株式会社
⑥データプラットフォーム	各実験で取得されるデータを収集・統合・分析等するデータプラットフォーム	西日本電信電話株式会社

5.2. 実施体制

平城宮跡歴史公園スマートチャレンジの実施にあたっては、コンソーシアムに参画している産学官の各機関が、以下の通りそれぞれの役割を担うことにより、実験全体の管理・運営を行う。

なお、平城宮跡歴史公園スマートチャレンジを通して得られた知見・ノウハウについては、都市公園等を拠点（実装のためのフィールド）としたスマートシティ実現を目指す他の都市等への参考となるよう、ガイドラインとしてまとめていくことを検討する。

表 5-2 産学官それぞれの担うべき役割

主体		担うべき役割
産	民間事業者	・社会実験の提案・実施、進捗や結果の報告 等
学	スマートシティや新技術、文化財、公園管理等に関する有識者	・専門的知見に基づく社会実験に対する助言 ・実験結果の検証 等
官	公園管理者、まちづくり、文化財、観光に関する行政部局	・平城宮跡歴史公園内および周辺の公園地域における実験内容の実用化に向けた調整 等

6. 市民参画の推進

スマートシティの推進には、AI や IoT などの新技術の活用も必要ではあるが、市民がこれらの新技術を自らの生活に取り入れ、より豊かな暮らしを送ることができるようにならないといけない。このような、スマートシティの推進に対する市民の理解を深めるため、市民参画を推進するべく、住民を対象とした説明会や、大学等と連携としたアイデアソン・ハッカソンを実施する。

7. 情報発信

社会実験等の取組については、国営公園事務所HPや平城宮跡歴史公園HPやSNSに加えて、民間事業者をはじめとしたコンソーシアム会員が管理するHP等とも連携し、積極的な情報発信に取り組む。情報発信に際しては、多様な年齢層・属性の公園利用者が、スマートチャレンジの背景や導入された新技術の仕組みなどについて理解できるよう、平易な表現となるよう留意するほか、動画などを用いた情報発信についても検討する。

また併せて、実験の進捗や結果の公表、さらには奈良のスマートシティ実現に向けた社会の意識醸成を目指して、シンポジウム等の開催を計画する。

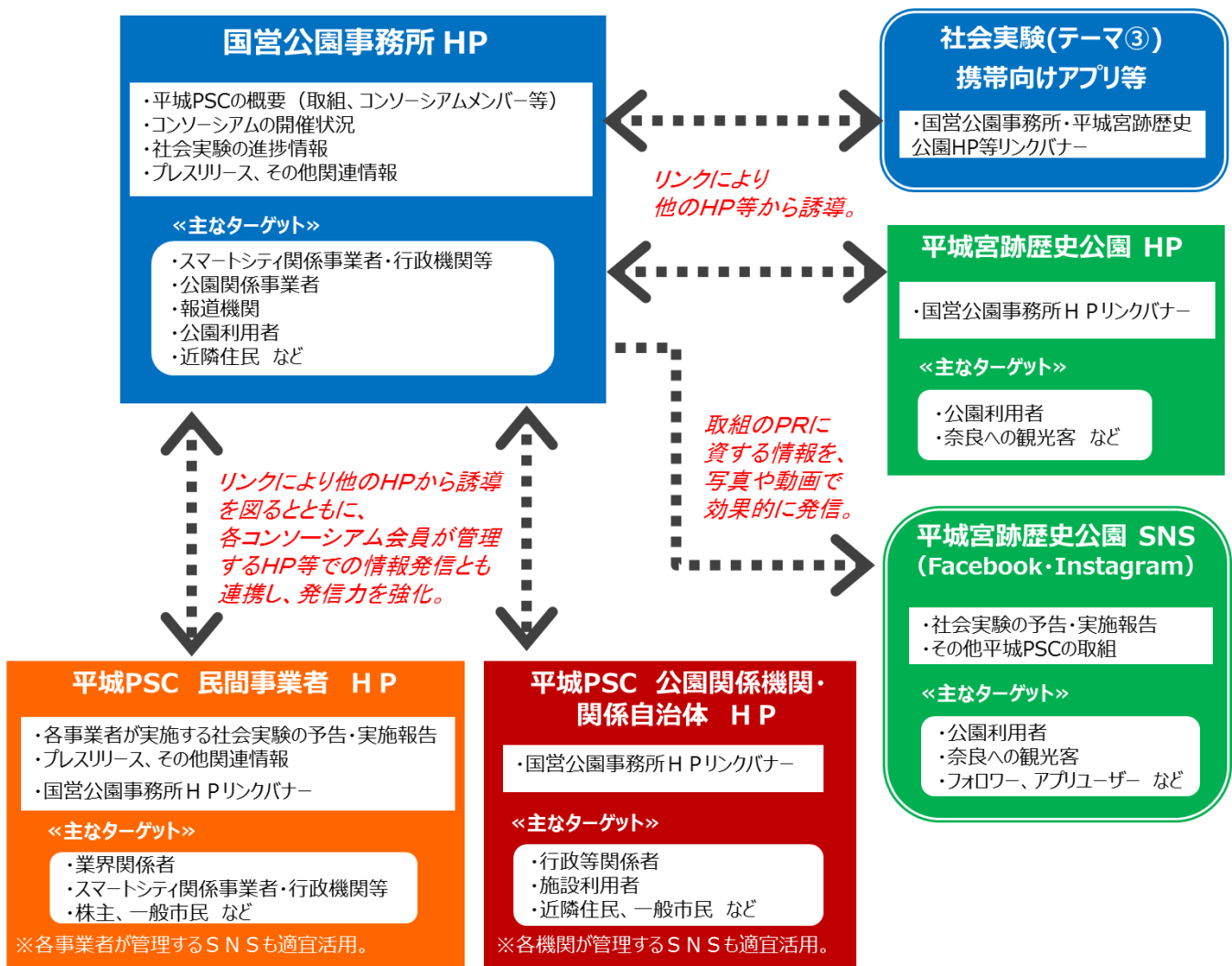


図 7-1 平城宮跡歴史公園スマートチャレンジ 情報発信の体系

8. 計画スケジュール

スマートチャレンジの各実験については、天平祭など集客が期待されるイベントの実施時期も考慮して実施する。実験内容は随時改善を図り、2020年以降の実用化を目指すとともに、他の公園や奈良のまちづくりへの展開を図る。

年	月	コンソーシアム (総会)	社会実験	園内でのイベント	園外でのイベント	
R1	7	●	計画 立案	平城京天平祭・夏 (8/23~25)		
	8					
	9	●	実験 実施	平城京天平祭・秋	正倉院展	
	10					ラグビー W杯
	11					
	12					
R2	1	●	結果 分析	大立山まつり	若草山焼き	
	2					
	3	●				
	4月 以降		改善 実験 ／ 実用化			